

# 准教授に就任して

## 准教授就任にあたりまして

組織再建口腔外科学分野・准教授 片桐 渉

平成28年7月1日付で組織再建口腔外科学分野の准教授を拝命させていただきました。この場をお借りしてご挨拶させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は大阪府の出身です。ちなみに「シンダイ」と言えば関西では神戸大学を指し、名古屋では「信州大学」を指していましたので、人生で3回目の「シンダイ」→「新大」への変換を頭に叩き込んだところです。さて、平成10年3月に大阪大学歯学部を卒業し、そのまま作田正義先生（現・大阪大学名誉教授）の口腔外科学第二講座に大学院生として入局しました。入局して臨床も研究も悪性腫瘍に携わることとなり、当時大流行であった遺伝子変異の解析を実際の臨床検体で行う研究を行いました。その頃から「臨床に直結する研究」というのが自分の中の一大テーマになったと記憶しています。

大学院修了後3年間は東大阪市立総合病院歯科口腔外科に赴任しました。ここでは土地柄もあり（笑）、外傷（右手で殴られるので左側の顔面骨折ばかり）、ステージIVばかりの悪性腫瘍、ICU即入院の炎症など非常に多くディープな症例を数多く経験させて頂きました。その後、阪大に帰局し臨床に明け暮れる一方、特に腫瘍の術後で食事や会話もままならない患者さんと数多く接してきて、「取る」医療も重要だけれども「取ったところを再び造る」医療の重要性を考えるようになりました。大学院時代に培養上皮を用いて発癌モデルができないかと考えていたので「再生医療」は自分にとっては身近な存在でもありました。そこ

で当時口腔外科領域で再生医療に勢力的に取り組んでいた名古屋大学の口腔外科に移りました。名大では上田実先生（現・名古屋大学名誉教授）を中心に骨髄由来間葉系幹細胞を用いた骨再生医療（いわゆる「培養骨」）の基礎研究から臨床研究までものすごいスピードで進められており、20名を超える大学院生、企業からの研究者などが数多く出入りし、最初は名前を覚えるのも大変だったことを記憶しています。そこは正にトランスレーショナル・リサーチ、すなわち研究成果を患者さんに橋渡しする場として絶えず臨床を念頭に置いて仕事が行われていたのに感銘を受けました。特に上田先生の強烈な統率力は良くも悪くも（笑）良い人生経験になっています。当時ヤンキースにいた松井秀喜選手が橈骨骨折をした時、その日の内に医局員にメールが回り、「ヤンキースに連絡を取って再生医療で骨折を治せ」という指示が出た時は唖然としましたが、結果的に球団広報まで話がいった時には（もちろん実際に治療は行われませんでした）何という医局に入ったものだとさらに唖然としました。当時、マスメディアにも名大の研究が多く取り上げられていたので全国から患者さんに来て頂き、私は骨再生医療とインプラント治療を任されました。骨再生が目的の患者さんばかりですので、インプラント埋入単独の患者さんは殆どおらず、全国各地でお手上げの症例ばかりを担当させて頂きました。おかげさまで今では少しでも骨がある症例では萌えないようになってしまいました。医学部の口腔外科ですから補綴も自分でします。フルマウスのケースも多

く、自分の給料に反映されないジレンマと戦いつつ患者さんのQOL向上と自分の思い描いていた「臨床に直結した研究」ができる喜びを感じていました。また、近年では「幹細胞の培養上清で骨ができたり歯周病が治ったらおもしろいよね」という有難い助言に始まり、「〇月〇日に記者会見をするからそれまでにデータを出して論文をアクセプトさせろ」という一瞬ドッキリかと疑うような指示を頂き、来る日も来る日もヒト（大学院生）とラットとイヌと過ごした時期もありました。おかげさまで無事ミッションクリアし、臨床研究も進み今の私の研究テーマの中心になりました。

こういった中、規制当局やPMDA（医薬品医療機器総合機構）、企業の方々、医学部の関連する先生方と議論や情報交換をさせていただく機会にも恵まれて新たな経験を積むと同時に、新しい医療を患者さんの元に届ける為にはさらに大きな山を越えなければならないということも理解しました。その経験は平成27年末に名古屋大学で行っていた骨髄由来間葉系幹細胞を用いた骨再生医療が「先進医療B」の承認という1つの結果となって実を結びました。国が認める枠組みの中で自分たちが行った研究成果を患者さんの元に届けられることになったのです。これは私の中では非常に

大きな喜びでした。そしてその枠組みの中で治療した患者さんの経過も非常に良好です。

こちらに赴任するにあたり、「日本酒が好きで、山を走るヒト」と小林教授に様々なところでご紹介頂きすっかりそのイメージが先行しておりますが、これは間違いではありません（笑）。この歳になって手足に生傷やブヨ（ブユ？新潟ではどう言うのですか？）に噛まれた痕が絶えないですし、昨秋には山中で低体温症でヤバいことにもなりました（笑）。新潟大学にはマラソンをする先生もたくさんおられ、再生医療とともに親近感を勝手に抱いています。この度、本当に様々なご縁が重なり新潟大学にお世話になることになりました。新潟大学も再生医療の研究が盛んであることは偶然ではないような気がします。私自身、新潟大学でさらに多くのことを学びたい気持ちでいっぱいです。また一方で口腔外科医としての経験もまだまだ必要です。大学教員としては学生教育も重要です。医学部で行う歯科口腔外科の講義は教える方も教わる方も正直モチベーションが低いのですが（笑）、ここではそういうわけにはいきません。自分なりに精一杯努力していきたいと思えます。すでに多々ご迷惑をおかけしておりますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

